



 三菱ガス化学株式会社
新潟工場

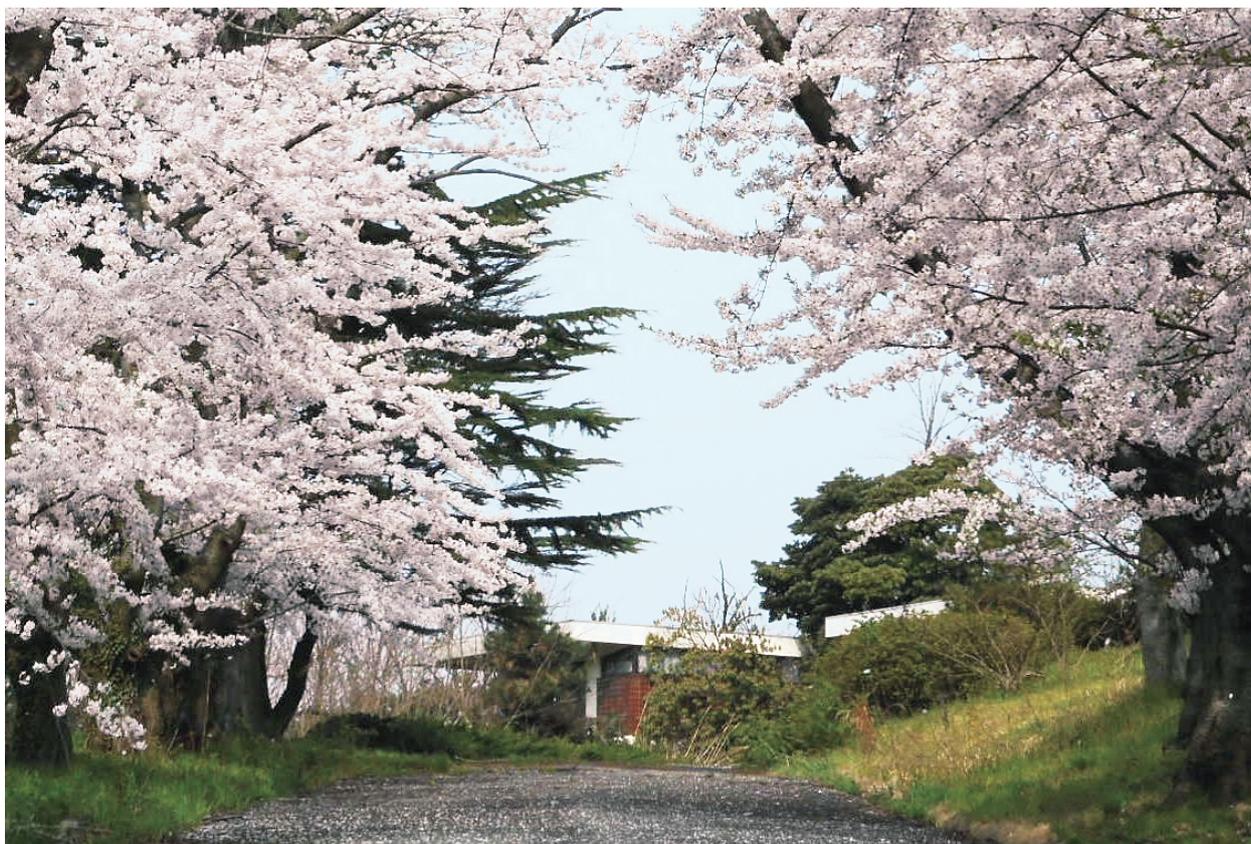
環境・安全報告書

レスポンシブル・ケア

2017年度



MGC



目次

	頁
◆ はじめに	2
◆ 新潟工場の概要	3
◆ 新潟工場 環境・安全・品質方針	5
◆ 新潟工場の環境・安全活動	6
◇ 年間目標と重点項目	6
◆ 新潟工場の環境・安全活動概況	7
◇ 環境保全	7
省エネルギーの推進	
産業廃棄物排出量の削減	
大気、排水、臭気、騒音への対応	
リサイクルへの取組み	
◇ 労働安全衛生	11
安全活動	
◇ 保安防災	12
保安防災活動	
◇ 化学品安全	12
品質・安全管理の徹底・顧客満足度のアップ	
◆ 地域社会との交流	13
◆ 新潟工場への代表的な質問	14

はじめに



執行役員 新潟工場長 高木 俊哉

三菱ガス化学株式会社新潟工場は、メタノールやアンモニア誘導体を基本として、独自で柔軟な技術展開を行いつつ工場近隣で産出する天然ガスを用い、数々の特徴のある化学製品を製造しています。当工場の化学製品群や蓄積された技術は国内に留まらず、世界へ向けて展開しております。

昨今、国内のコンビナートにおいては、人身被害を伴う重大事故が発生しています。原因が究明される中、保安防災システムを網羅的に確立しておけば、被害の縮小あるいは事故を防ぐことができた可能性が指摘されています。当工場におきましても、これら事例を「他山の石」とし、リスクアセスメントの充実、第三者による評価や高度な自主保安活動を通じ、事故・災害防止に努め、安全・安定運転を目指しています。

安全管理技術は近年益々注目されています。当工場では諸先輩方の長年の積み重ねにより得られた安全管理技術に加え、社外の安全情報も積極的に取り入れ、常にブラッシュ・アップを行っております。また、設備に関する知識教育や緊急時対応訓練などを行う「技術教育研修館」を立ち上げ、人材育成にも努めています。

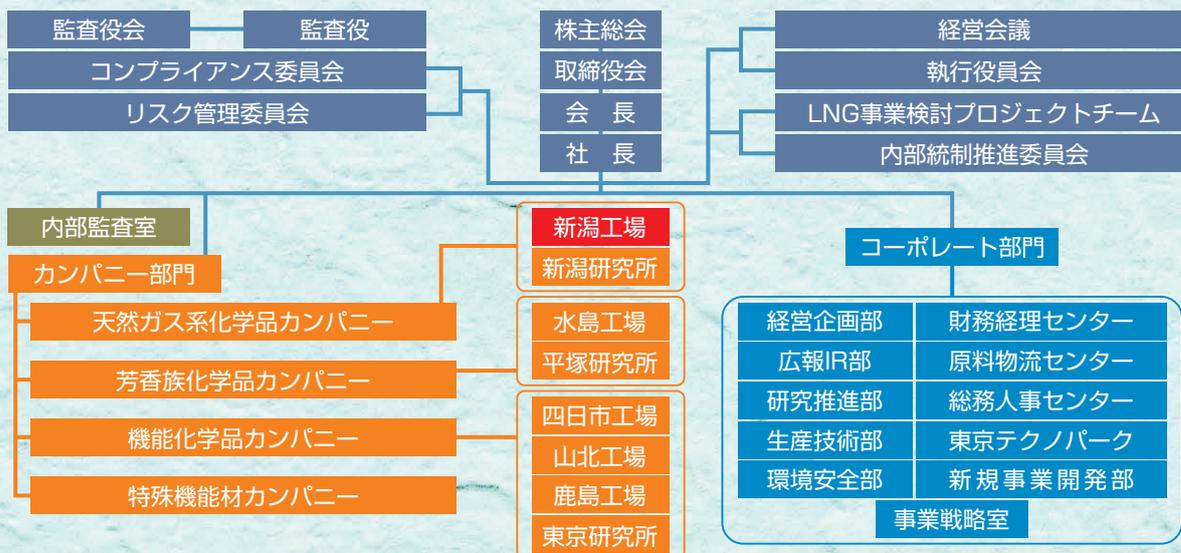
本レポートは、新潟工場における保安防災の他、環境保全等にかかる自主活動、レスポンスブル・ケア(RC)活動の昨年一年間の実績を、写真、図、データ等で皆様にご報告するものです。ご一読いただき、当工場の活動にご理解をいただく一助となれば幸いです。企業活動を通じて社会と地域の皆様に信頼され、地域の活性化に貢献できる工場に育てていきたいと切に考えております。

今後より一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新潟工場の概要

当社の構成

当社はカンパニー制を採用しています。事業主体である四つのカンパニーと、経営スタッフでありカンパニーをサポートするコーポレートから構成されています。新潟工場は、天然ガスを基盤に事業展開する天然ガス系化学品カンパニーに所属しています。



新潟工場の概要

当工場は、日本海を戴く越後平野に立地し、阿賀野川の豊富な水と緑の環境の中で、自然と調和しながら、新潟地区の豊かな天然ガスをベースに、独自技術展開により発展を遂げてきました。

昭和27年、新潟市内榎地区での天然ガスを原料としたメタノール合成プラントをスタートにし、アンモニア・尿素およびその誘導品(ホルマリン、メチルアミン、青酸、メタキシレンジアミン(MXDA)等)の展開、事業化を行ってきました。天然ガスを起点とする展開はさらに、メタクリル酸エステル類、合成樹脂(MXナイロン、特殊ポリエステル、特殊アクリル系樹脂、シアネート樹脂等)、電子工業薬品(超純アンモニア水等)、ライフサイエンス製品へと広がっています。また、当工場では、CO₂排出が少なくクリーンな燃料として、電力を含めた工場内のエネルギー供給に天然ガスを利用しており、特徴ある天然ガス系化学系工場となっています。



- 所在地 新潟市北区松浜町3500番地
- 敷地面積 740,966㎡(石炭法上のレイアウト規制面積)
- 従業員数 467人(2017年3月末)
- 売上高 419.7億円(2016年度)
- 特徴 自然と調和する天然ガス系化学工場
独自技術によるユニークな製品

認証取得

◆国際標準の導入

当工場は、品質管理や環境保全に国際標準を積極的に導入し、社会からの信頼の向上に努めています。1995年1月にISO 9001を、1998年6月にISO 14001を認証取得しました。認証取得以降毎年定期監査と3年毎の更新監査を受審しています。

本年度はISO9001・14001それぞれ2015年度版への移行し、運用を開始しています。

◆高圧ガス認定取得

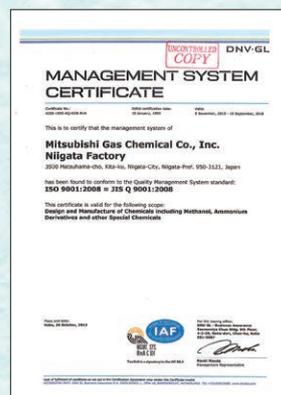
当工場は1956年に高圧ガス製造許可を得て以来、50余年間に亘り高圧ガス製造技術の向上と共に化学製品を市場に安定供給し続けています。

操業開始以来、工場の保安技術の改善を進めており、自主保安体制が確立した事業所として2000年に高圧ガス認定完成(保安)検査実施者を取得し、その後2005年、2010年、2015年と、5年毎の更新審査を経て引き続き安全に運転を実施しています。

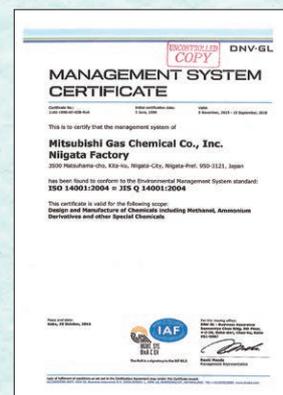
自主保全をさらに推進し、安全・安定運転のため、より一層の保安技術の研鑽に努めてまいります。

◆ボイラー等の開放検査周期認定取得から更にその更新認定に向けて

1997年12月にボイラー及び第一種圧力容器45基について、運転や保守に関する管理体制が確立し、定められた基準に基づく高度な管理や自主検査が確実に行われていること等が認められ、2年連続運転(開放検査周期)の認定を取得しました。以来、開放検査周期認定を取得した機器を徐々に増やし、2017年3月末現在で59基のボイラー及び第一種圧力容器について開放検査周期認定を取得し、当工場のボイラー等の安全管理に高い評価を受けています。



ISO9001認定証



ISO14001認定証

新規施設の紹介



当工場では1957年以降アンモニアを生産してきましたが、国内需要の減少および装置の老朽化を背景に2015年7月末に生産を停止いたしました。これに伴い、アンモニア生産のために使用していた高圧スチームの有効利用を図るため、2016年末に新たにスチームタービン発電機を導入致しました。また、自家発電装置を更新し、工場内の電力・スチームなどの需要に柔軟に対応できる体制を整えました。

これらの施策により、ユーティリティ設備の能力が最適化され、従来は活用しきれなかった工場内のエネルギーを有効利用することが可能となりました。

新潟工場 環境・安全・品質方針

環境・安全・品質方針

三菱ガス化学新潟工場は、クリーンエネルギーである天然ガスを生産、利用して特色のある化学製品を製造している天然ガス系化学工場です。

当工場は、「事業活動の最優先は安全の確保」を事業存立のための基盤とし、「環境負荷低減」「無事故・無災害」「安全・安心・安定操業」を目標に掲げ、地球環境と地域に調和した安全で明るい工場を目指し、より良い製品を提供する生産活動に努め、社会の発展に貢献します。

1. 環境・安全・品質関係の法令、協定、社内規程を遵守する。
2. 品質を通じて顧客満足の獲得を図るとともに、環境・安全を通じて地域との共生を図る。
3. 設備の保安管理を確実なものとし、自主保安技術の向上に努めると共に、事業活動において保安に影響を与える危険源への適切な対処に努める。
4. 環境・安全・品質及びRCマネジメントシステムを確実に運用管理し、継続的に改善・向上させることにより、環境汚染、事故災害、不良品発生を未然に防止する。
5. 環境・安全・品質方針に従い、目標を設定し、定期的に見直すと共に、具体的な活動計画を策定し、その達成に努める。
6. 教育、社内広報活動を通じて、当工場の全従業員に、環境・安全・品質方針を周知させると共に、社外にも公開する。

2017年1月1日

三菱ガス化学株式会社
執行役員 新潟工場長

高木俊哉

 三菱ガス化学株式会社

新潟工場環境・安全活動

年間目標と重点項目

	全社基本方針	活動目標	具体的な実施事項
労働安全衛生	操業における健康、安全の確保	<ol style="list-style-type: none"> ① 日常的な安全活動の継続。 ・ヒヤリ気懸り提案活動を通じ危険への感性向上活動を継続して取り組む。 ・非常時作業時におけるKY活動の徹底を図る。 ・TPM活動を推進し、また保全道場等の教育を活性化させる。 ② コミュニケーション充実によるヒューマンエラー撲滅。 ③ 過去事例教育、類似事故事例の周知、再発防止のための水平展開活動を推進する。 ④ 協力会社労災防止のため、支援、コミュニケーションの充実を推進する。 ⑤ 化学物質に係るリスクアセスメントを実施し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全員参加のヒヤリキャンペーンを年4回実施し、安全衛生委員会を通じて啓蒙を図る。提案された内容に関しては解析を行い、実効性に重点を置いた評価の検討を行う。 ◆ 非常時作業におけるKY活動を徹底する。 ◆ TPM活動を通じ、徹底された不具合抽出復元、改善の実施と5Sによる業務改善に取り組む。保全道場やプロセス道場での教育を継続し、異常の有無、運転異常時に適切に対処できるオペレータを育成する。 ◆ 外部講師を招いたヒューマンエラー講習会を実施する。 ◆ Bridge活動に則ってコミュニケーションの充実を図る。 ◆ Bridge活動に沿って、トラブル理解度システムの運用を継続する。 ◆ 災害情報の共有及び災害防止の相互啓発を図る。 ◆ 化学物質に係るリスクアセスメントを実施する。
保安防災	自主保安技術と現場力の向上による保安の確保	<ol style="list-style-type: none"> ① 安全担当をBridgeメンバーとし、NF全体参加となる活動を活性化させる。 ② 「保安力評価システム」を導入し、保安レベルを認知し、保安力向上へ繋げる。 ③ 非常時時のリスクアセスメントに取り組み危険源のリスク低減に取り組むと同時に他手法による調査を行う。 ④ 教育ガイドライン及び保安教育要領に沿った教育訓練の充実と確実な実施。 ⑤ 日化協「事故防止ガイドライン」等を利用した過去事例の解析による類似事項発生防止に努める。 ⑥ 防災訓練や、近隣関係会社等及び公設消防との間の緊急時対応訓練を通じ、防火体制をより充実させる。 ⑦ ・本社と協調し設備管理の充実を推進する。 ・外部腐食管理を推進する。 ・高圧ガス認定検査管理業務の見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 定期的に安全担当者会議を開催し、各種活動の推進を図る。 ◆ 保安力評価システムの導入推進、他部門と協力し評価を進める。 ◆ 非常時作業における危険源の特定をwhat-if/CL方式により進める。 ◆ 抽出された非常時時の危険源調査を実施すると同時に、他法による非常時リスクアセスメントについて検討を開始する。 ◆ 変更管理及び安全審査のフォローアップを実施する。 ◆ 過去の事故労災再発防止策のフォローアップの実施。 ◆ 教育ガイドライン及び保安教育要領に沿った教育訓練計画を立案する。 ◆ 「事故防止ガイドライン」「保安力強化」での弱みについて計画的改善を進める。 ◆ 責任分界とそれぞれの役割を確認し、緊急対応訓練を実施する。 ◆ 過去訓練の課題点を踏まえた訓練シナリオを作成し、情報伝達、指揮系統を明確化する。 ◆ 緊急時想定訓練、大津波避難訓練等、訓練内容の工夫を図る。 ◆ 化学被害の近隣影響評価を検討する。 ◆ 検査結果に基づく設備保全について進捗管理を行う。 ◆ 高圧ガス認定更新における指摘等を反映し、より保安管理システムが有効に運用されるよう、要領の見直し等を検討する。
環境保全	環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献	<p>ISO9001・14001統合システムの確実な運用とともに、業務品質向上を図り、安定運転による環境影響低減を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 安全操業による環境影響の低減、品質安定化。 ② 環境管理計画の遂行。 ③ クレームの低減。 ④ 事業所近隣の自然保護・環境美化活動に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事故・トラブル撲滅と安定運転を通じて、環境・品質リスクと環境負荷の低減、品質安定化を図る。 ◆ エネルギー原単位の削減、PRTR対象物質排出量維持削減、VOC排出量維持削減、ゼロエミッション比率の維持向上、グリーン購入の維持推進。 ◆ 環境クレーム発生原因箇所を特定し、再発防止対策の立案により低減を図り、是正対策の有効性確認と水平展開、予防措置強化月間の確実な参加を促す。 ◆ 事業所近隣の地域のクリーン活動や森林保全活動など積極的に参加・協力する。
化学品製品安全	化学品の取扱い・私用・廃棄における安全の確保	<ol style="list-style-type: none"> ① 製品及び原料SDSの最新版への反映と周知。 ② 新製品開発時における安全性事前評価の実施。 ③ REACH規制対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ SDS最新情報の毎月の定期監査と工場内へ周知する。 ◆ 原料SDSの最新版の入手し周知する。 ◆ 変更内容に応じて、品質審査、環境安全審査を確実に運用する。 ◆ 薬品・試薬リスト管理の強化を行う。 ◆ 原料品について環境規制物質への対応を実施する。 ◆ 講習会等によるREACHに対する知見を深める。
物流安全	原料・製品の物流における環境・安全の確保	<p>物流における安全確保と環境負荷の低減の推進。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 物流関連トラブルの集計と解析、水平展開の実施。 ② 物流委託会社の安全監査の実施。 ③ 物流交通事故対応訓練の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 物流関連トラブルの集計と解析、水平展開を図る。 ◆ 物流関連会社に安全監査を計画、工場内の協力を以て実施する。 ◆ 物流交通事故の発生を想定した訓練を企画、実施する。
社会との対話	ステークホルダーとの関係強化	<p>ステークホルダーを意識して社会とのコミュニケーションの推進。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 環境安全報告書の発行。 ② 社会・環境への貢献活動への参加と、社会とのコミュニケーションを推進。 ③ 日化協主催RC地域対話への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 環境安全報告書を発行する。 ◆ 近隣交流行事への参加、近隣自治会会議への参加を通じて社会とのコミュニケーションを図る。 ◆ 新潟北地区RC地域対話を幹事会社として開催する。
RC全般		<ol style="list-style-type: none"> ① コンプライアンス教育を実施する。 ② 他事業所のRC体制を参考にし、見直しを図る。 ③ 規定類整備・運用の確実な実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コンプライアンス教育としてMGC企業行動指針、行動規範の教育を実施する。 ◆ 他事業所のRC監査へオブザーバーとして参加する。 ◆ 規程・基準類の見直し計画を立案し、確実に実施する。 ◆ 各種監査で指摘された事項に対し適切に対応する。

新潟工場環境・安全活動概況

環境保全

新潟工場では、「廃棄物管理部会」、「エネルギー管理部会」、「環境保全部会」、「省資源リサイクル部会」の4部会を設置し、環境・安全活動を推進しています。また、長年の活動が認められ、新潟地区環境保全連絡協議会より、優良従業員表彰を受賞いたしました。

省エネルギーの推進

◆省エネルギーの実績

新潟工場では、エネルギーを合理的かつ有効に使用することによって、地球温暖化防止に貢献するとともに、限りある資源の有効利用を図り、環境にやさしい工場とすることを目的として省エネルギー活動を実施しています。

活動の目標を、2015年～2017年の3か年計画で、エネルギー原単位を4%、(23.5万GJ)*削減することとしています。

2016年の目標数値は、エネルギー原単位を1.5% (8万GJ)*を削減することといたしました。

*換算年間生産量30万tonをベースに換算

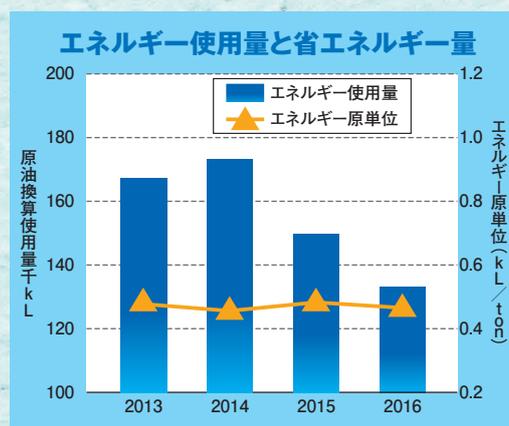


<2016年度の取り組み>

2016年度の省エネルギー対策として以下の項目の改善に取り組みました。

- ・安定運転の継続(トラブル削減)、保温保冷やスチームトラップの適正管理
- ・スチームタービン導入、ガスエンジン発電機の導入
- ・アミンリプレイスの実施及び計画省エネの検証
- ・焼却炉の廃熱回収、水素使用量削減、最適化検討
- ・室内照明の省エネ(LEDまたはHf化)、道路灯のLED化
- ・旧式エアコンの計画的更新 等

現在の進捗ですが、3年間計画で23.5万GJの削減目標に対し、2年目で既に26.2万GJ削減しており、目標数値を達成していますが、引き続き年間8万GJの削減を目標として削減に取り組んでいます。



産業廃棄物排出量の削減

◆産業廃棄物の委託処理量の実績

残念ながら2016年の廃棄物排出量は昨年実績より微増いたしました。これは装置から排出される廃液を処理する際に発生する汚泥の売却が芳しくなく、産業廃棄物として処理したためです。

突発的な装置停止が要因となる産業廃棄物の増加はなく、引き続き安全運転に努め、産業廃棄物削減に取り組んでまいります。



大気、排水、臭気、騒音への対応

◆大気汚染の防止

<二酸化炭素(CO₂)の排出実績>

省エネやNGLから天然ガスへの燃料転換により、地球温暖化の原因となるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2016年度はアンモニア装置の停止に伴いCO₂排出量が大幅に減少する結果となりました。

【記】この数値は、購入電力の発電時に排出されるCO₂を含んでいます。

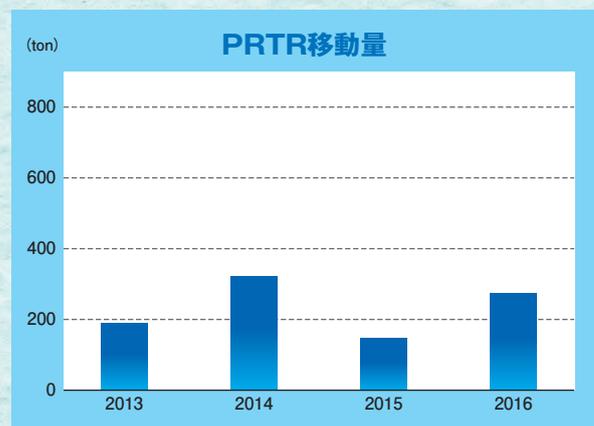
NGL：天然ガス産出時に随伴する原油



<PRTRへの対応>

PRTR移動量とはPRTR物質の大気への排出量、事業所外への移動量、下水道への移動量等の合計数値で表されています。

2016年度は幾つかのPRTR対象物質を産業廃棄物の対象として事業所外へ移動したことが要因で増加しています。



ホルムアルデヒドの除害塔

【記】PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 汚染物質排出・移動登録制度

事業者から、大気、水質、土壌への化学物質の排出量および廃棄物の移動量について、行政機関がデータ収集・整理し、社会に公開する制度。2002年度から実施、対象となる化学物質(第一種指定化学物質)は462物質。当工場を対象となる物質は以下の通りです。

- ・エチレンオキシド
- ・ホルムアルデヒド
- ・エピクロロヒドリン
- ・メタクリル酸
- ・無機シアン化合物
- ・メタクリル酸メチル
- ・ジクロロメタン
- ・メタクリル酸エステル類

◆排水管理の徹底 ＜活性汚泥処理設備＞

当工場の製造工程から排出される汚水は、微生物の働きを利用した活性汚泥装置により清澄な水に浄化しています。

新井郷川への放出口には緊急遮断弁を設置しており、万が一工場内の排水に異常があったとしても、工場外へ異常排水を流さないシステムを構築しています。



高速凝集沈殿装置
(汚泥を沈降させ、澄明な上水を放流します)



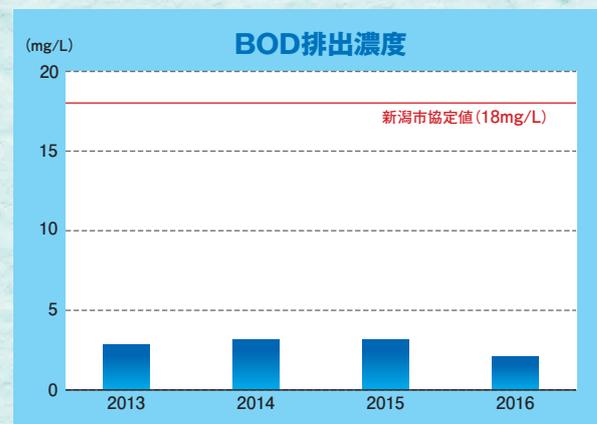
総合排水路出口の緊急遮断弁
(異常排水を新井郷川に流さないための設備です)

・ BODの排出濃度の実績

当工場の製造工程から排出される汚水を、活性汚泥処理設備で処理し、BODを一般河川と同等レベルまで処理した後、新井郷川へ放流しています。

【記】

BOD(生物化学的酸素要求量)は水の汚れを示す指標で、微生物が汚れを分解する時に消費される酸素の量をいいます。



・ SSの排出濃度の実績

活性汚泥設備の安定運転に努める事により、SSの排出濃度を適正管理しています。

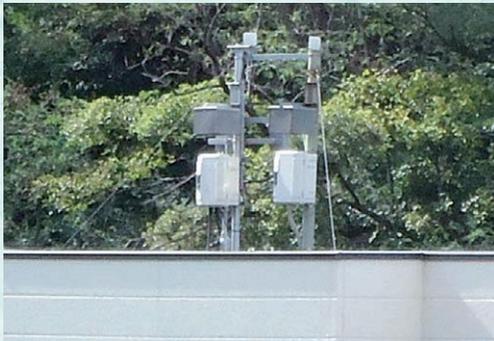
【記】

SS(浮遊物質)は水の濁りを示す指標で、工場から出る濁り分の他に原水(阿賀野川)の濁りも影響します。



◆臭気の削減

臭気を出さない事は勿論ですが、もし臭気が出た場合でも、すぐに検知し調査・対応が図れるよう、臭気センサーあるいはガス検知器は表門守衛所、工場中央、新井郷川沿いにを設置し、24時間の監視体制を構築しています。



表門守衛所の臭気センサー及びガス検知器



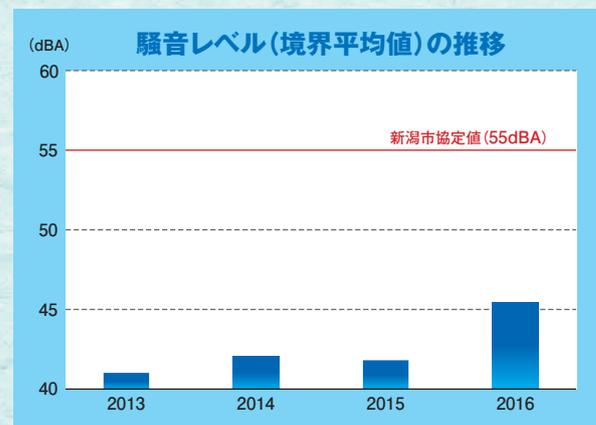
表門守衛所の臭気連続監視画面

◆騒音の削減

騒音源の多い製造施設を中心に、吸音材の施工や消音器、防音壁の設置、敷地境界への植栽面積増加を継続して行い、騒音レベルの低減に努めています。

また、周辺地域における定期的な騒音測定も実施し、状況監視に努めています。

注)データは春秋及び昼夕夜の敷地境界の測点
平均値



植栽



消音器

リサイクルへの取組み

事務用紙の使用量の管理、事務用品のグリーン購入を進め、環境への負荷軽減に努めています。会議ではプロジェクターの有効活用の推進に努める一方、事務用紙の使用量削減を行っています。

【記】グリーン購入

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際、環境を考慮し、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

労働安全衛生

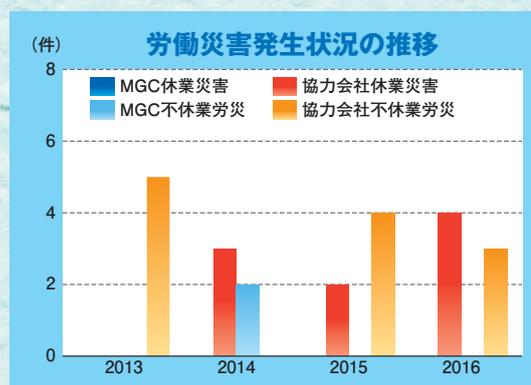
安全活動

◆労働災害発生状況の推移

三菱ガス化学(株)新潟工場の休業災害件数は2011年度より0件を継続しています。しかし当工場の操業においてご協力を戴いている協力会社の労災件数は、不休業災害は減少しているものの休業者数は増加傾向です。協力会社との連携を強め、様々な対策を進め、労災ゼロを目指します。



管理者によるパトロールの様子



◆定期点検作業における安全への取組み

工場では装置毎に定期点検を実施しています。定期点検では多数の協力会社が連携して点検・工事を実施しています。

協力会社の作業者の安全を図るため、毎朝定例ミーティングを実施し、当日の作業内容の確認は勿論のこと、作業に潜む危険予知の抽出等を確認し合い、事故撲滅に努めています。



MMA定期修繕作業における安全大会

◆無事故・無災害に向けての取組み(技術教育研修館)



プロセス道場の教育風景

無事故、無災害に向け新潟工場では、2011年よりTPM(Total Productive Maintenance)活動を進めております。更には製造現場での設備管理技術、運転管理技術の向上を図る場として技術教育研修館を開設し、2014年からミニプラント等を教材とした「保全道場」、2016年からは運転訓練シミュレーターを用いた「プロセス道場」を開講し、これまで協力会社含め、多数受講しています。これからも積極的に人材育成への取り組みを進め、力量の向上に努めて参ります。

保安防災

保安防災活動

◆防災訓練

当工場は、多くの可燃性の化学物質を取り扱っています。そのため、万一に備え自衛消防を組織しています。年に1回、新潟市消防局、西港共同防災と連携して消火活動を行う総合防災訓練を行っています。

2016年の総合防災訓練は、製造施設内から危険物が漏洩、着火し、延焼拡大の恐れがあるという想定で、工場内の協力会社にも参加していただき行いました。

そのほか、地震・津波想定での避難訓練、夜間の緊急連絡・駆付訓練や消火器での消火訓練、消火栓による放水訓練等を実施しています。



◆物流事故を想定した訓練

当工場では、原材料製品として多くの化学物質、製品を運搬しています。そのため、物流事故を想定した訓練も毎年行っています。

2016年は新新バイパスにてローリーが横転し、積み荷が漏洩したという想定で、物流想定訓練を実施しました。

化学品安全

品質・安全管理の徹底・顧客満足度のアップ

ISO9001・14001の認証取得による安全・品質管理はもちろんのこと、製品、原材料、中間体や廃棄物に至るまでSDSを完備しています。また、万が一の物流事故に備え応急措置時の安全情報を記載したイエローカードの携帯、小型容器イエローカードを導入等、徹底した安全管理の強化に努めています。

【記】SDS (Safety Data sheet) 製品安全データシート

化学製品を安全に取り扱うために必要な情報(物理的/化学的性質、危険性、有害性など)を記載した小冊子。化学製品の事故・災害を未然に防止することを目的に、供給者から使用者や取扱事業者に製品毎に配付します。



新規健康食品素材PQQ(ピロロキノリンキノン)

地域社会との交流

私たちは地域社会との共生を目指して、さまざまな機会を利用して地域の皆さんとのコミュニケーションを図っています。



毎年、新年に行われる松浜・南浜・濁川の3地区合同出初め式に、当工場の化学消防車も参加し、地域の防災行事に協力しています。



毎年行われる春・秋の交通安全週間中、地域住民の道路横断者の安全を目的として旗振りを行っています。



新潟市のシンボルである萬代橋をメインに行われる「新潟まつり大民謡流し」に参加し、地域との親睦と融和を図っています。



海辺の森周辺整備協議会主催の保全活動に当工場も参加しています。保全活動を通じ、工場周辺の方々との交流・親睦を深めています。



周辺住民や学生等、幅広い皆様に工場を見学して戴いております。
(写真:新潟工業高校の学生さんの見学風景)



新潟県防災局消防課主催の新潟西港地区石油コンビナート等特別防災地域協議会の研修が当工場で開催されました。

◆新潟工場への代表的な質問

Q 夜になると煙突から炎が出ているのが見えることがあります。火事ではないのですか？



A これは火事ではありません。
上の写真はフレアスタックと呼ばれる設備です。ガスを煙突の先で安全に燃焼させ、ガスに含まる有害成分を焼却することでガスを無害化するために行う処置です。

Q たくさんの白い煙が出ていますが、身体に害はないのですか？



A 上の写真は冷却塔と呼ばれる装置です。この装置から出る白い煙のほとんどは水蒸気で人体には影響がありません。
当工場は新潟市と公害に関する協定を結んでおり、煙突から大気に放出するガスに関して、窒素酸化物量、硫黄酸化物量等、規定されています。定められた項目に関して、大気に放出するガスを測定し、協定範囲以下で大気に放出していることを確認しています。

Q 夜も明るく照明がついていますが、どうしてですか？



A 当工場は24時間365日休みなく操業しています。そのため、安全を確認するため、パトロールを適時実施しています。
夜間においては特に、従業員が安全に移動し、各種確認作業をするため、多くの照明を設置し、通路を確保することが必要となります。

Q 工場で災害などが起こったらどうするのですか？



A 工場内には化学消防車を配置しています。また、万一災害が発生した場合に対応できる様、定期的に訓練しています。
災害が発生した時は、直ぐに消防署に通報するのは勿論ですが、緊急時には防火防災隊と呼ばれる自警組織を設置し、災害に対処致します。また、新潟西港共同防災殿とも協力関係にあり、同様に災害に対処するシステムとなっています。



●お問い合わせ

 **三菱ガス化学株式会社**
新潟工場

環境安全室 環境安全グループ

〒950-3121 新潟市北区松浜町3500番地

TEL・FAX (025) 259-3945



このパンフレットは
再生紙を
使用しております。